

KO MAI

苫小牧市
都市景観形成
基本計画

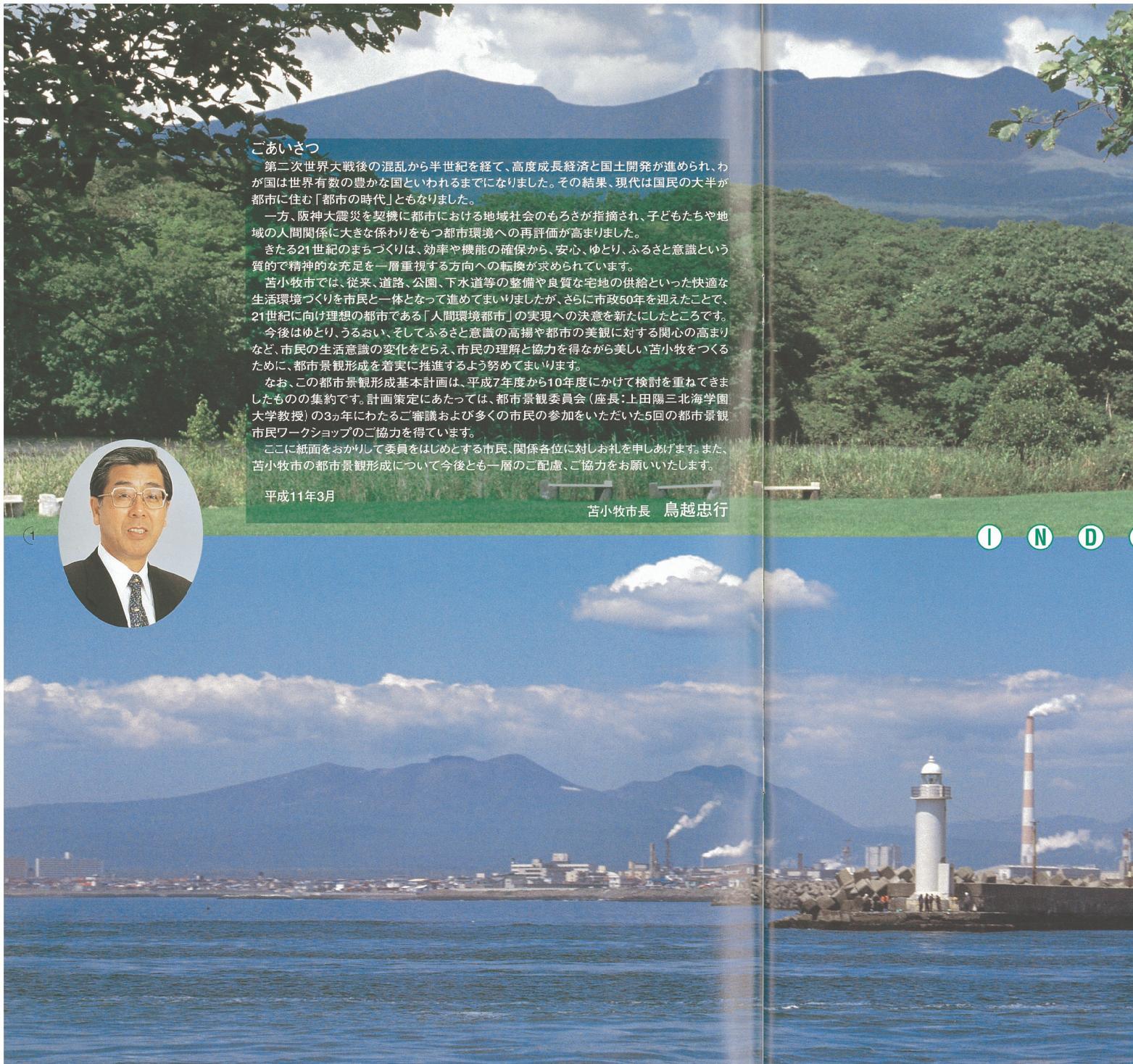


山と海にいだかれた美しいまちへ

KO MAI



苫小牧市



ごあいさつ

第二次世界大戦後の混乱から半世紀を経て、高度成長経済と国土開発が進められ、わが国は世界有数の豊かな国といわれるまでになりました。その結果、現代は国民の大半が都市に住む「都市の時代」となりました。

一方、阪神大震災を契機に都市における地域社会のもろさが指摘され、子どもたちや地域の人間関係に大きな係わりをもつ都市環境への再評価が高まりました。

きたる21世紀のまちづくりは、効率や機能の確保から、安心、ゆとり、ふるさと意識という質的で精神的な充足を一層重視する方向への転換が求められています。

苫小牧市では、從来、道路、公園、下水道等の整備や良質な宅地の供給といった快適な生活環境づくりを市民と一緒に進めてまいりましたが、さらに市政50年を迎えたことで、21世紀に向け理想の都市である「人間環境都市」の実現への決意を新たにしたところです。

今後はゆとり、うるおい、そしてふるさと意識の高揚や都市の美観に対する関心の高まりなど、市民の生活意識の変化をとらえ、市民の理解と協力を得ながら美しい苫小牧をつくるために、都市景観形成を着実に推進するよう努めています。

なお、この都市景観形成基本計画は、平成7年度から10年度にかけて検討を重ねてきましたものの集約です。計画策定にあたっては、都市景観委員会（座長：上田陽三北海学園大学教授）の3ヵ年にわたるご審議および多くの市民の参加をいたいた5回の都市景観市民ワークショップのご協力を得ています。

ここに紙面をおかりして委員をはじめとする市民、関係各位に対しおれを申し上げます。また、苫小牧市の都市景観形成について今後とも一層のご配慮、ご協力をお願いいたします。

平成11年3月

苫小牧市長 烏越忠行

■ごあいさつ	1
■いつまでも美しい苫小牧するために	3
■みんなの手で、みんなの声で、美しい苫小牧へ	5
■苫小牧市都市景観形成基本計画	7
●理念と目標	7
●基本方針	8
●都市景観の形成方針	9
○苫小牧らしい都市景観へ	9
○暮らしに根ざした都市景観へ	10
○身近な美しい都市景観へ	11
・拠点景観の形成方針④自然保全系・社会活動系	12
・軸的景観の形成方針①<道路軸>	13
・軸的景観の形成方針②<河川軸>	15
・地区景観の形成方針①<住宅地>	17
・地区景観の形成方針②<商業地>	19
・地区景観の形成方針③<工業地>	21
・地区景観の形成方針④<港湾・海浜地>	23
・地区景観の形成方針⑤<公園緑地>	25
●都市景観の形成・実現にむけて	27
■計画策定のあらまし	30
■都市景観市民ワークショップの活動	31
■苫小牧の都市景観資源	33



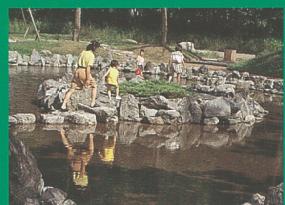
ウトナイ湖



北大演習林



樽前ガロー



明野7号公園



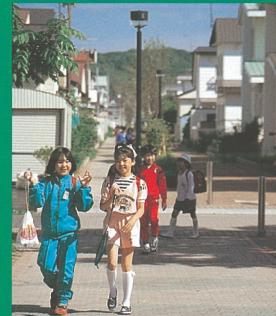
木もれびの道



太平洋



市民文化公園



柏木の道



シンボルストリート

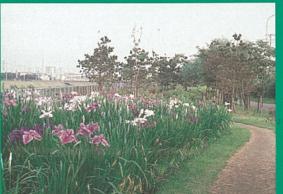


苫小牧港と市街地

私たちが暮らす苫小牧には、樽前山とその山麓に広がる豊かな緑や多くの川があり、野鳥が飛来する湖があり、そして北海道有数の工業港があります。このような苫小牧らしい景観は、私たち市民にとってかけがえのない宝物といえるでしょう。この自然と歴史の恵恵をしっかりと守りながら、さらに心地よいまちに、暮らしていく自慢できるまちにしていくことが、次世代の子どもたちへ誇りをもってまちを受け渡していく私たちの義務でもあります。さて、あなたの瞳の奥には、どんな未来の苫小牧のまち並みがうつっていますか？

■苫小牧らしい景観をうみだす要因

区分	都市景観に影響をおよぼす要因	苫小牧らしさの要因
自然的要因	地形・地勢的な要因	●市街地は標高20m以下の三角洲性低地。市街地北端に標高40mの滑食崖がある。 ●太平洋に開いた港がある。
	地質・土壤的な要因	●表層地質は、海浜部で未固結堆積物の砂や泥炭、丘陵部で火山性岩石の火山灰である。
	気象的な要因	●冬期の雪が比較的少ない。 ●夏期の霧日が多い。
	眺望的な要因	●市街地は東南、西が平坦地で障害物が少ない。 ●市街地は樽前山を仰角1°～5°で見上げる。 ●フェリーで海から見られる景観をもっている。
	植生的な要因	●市街地から3km以内に丘陵地が迫り、中景域で緑を視認できる。
人工的要因	歴史的な要因	●明治末期に市街地形成がはじまり、JR駅前の商業地、港や臨港型工業地などが整備されてきた。
	社会経済的な要因	●北海道の製造品出荷額の10%を生産する工業都市である。 ●人口は約17万人で全道第6位に位置し、依然増加している。
	科学技術水準的な要因	●住宅や建築物の建設が盛んで、整然としたまち並みが整備されている。
	法制度的な要因	●計画的な市街地形成に合わせて都市計画の規制誘導が行われている。 ●丘陵地、湖沼地では自然環境の保護、保全がはかられている。
	住民意識的な要因	●苫小牧市の景観に対するアンケート調査では、水辺、美観、環境教育に关心が高い。



市民の手で育てられたハナショウブ



海岸のゴミ拾い



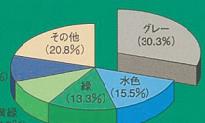
市民参加による植樹

みんなの手で、みんなの声で、美しい苫小牧へ

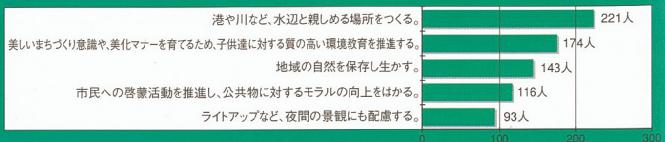
市民の意識や暮らしの中にある苫小牧の都市景観

①～④：「苫小牧市の景観に対するアンケート調査」より引用 ⑤：苫小牧市教育研究所編「苫小牧校歌集」を調査

① 苫小牧のイメージカラーは？



② 苫小牧のまち並みに関する、具体的な改善提案は？



「苫小牧市都市景観形成基本計画」は、調和のとれたまちづくりの基本となるルールです。

この計画は、都市を建設する視点が「量から質へ」と移行しはじめるなか、市民、事業者、公共が同じ目標を共有しながら21世紀にふさわしい都市景観を形成するための「ルールブック」であり、平成8年度策定の都市景観ガイドプラン^{※1}、平成9年度策定の都市景観ガイドライン^{※2}、平成10年度策定の都市景観重点地区ガイドプラン^{※3}の内容をまとめたものです。

※1：都市景観の目標と、形成方針を定めた基本計画。

※2：具体的な方策、事例を示した形成指針。

※3：先導的、モデル的な地区で、より具体的に景観形成を検討した計画。

「苫小牧市都市景観形成基本計画」には、多くの市民のみなさんの声が反映されています。

この計画を作るにあたって、まず平成8年度に苫小牧市都市景観委員会が設置され、3年間にわたって都市景観の形成のために審議をかねてきました。さらに平成9年度、平成10年度には「都市景観市民ワークショップ」^{※4}が開催され、市民のみなさんから都市景観について、自由で暮らしに根ざしたさまざまな意見が出されました。

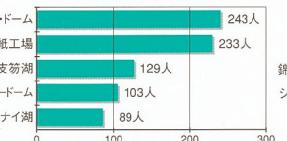
※1：ワークショップとは、グループごとに地図づくりや表づくりなどの協同作業を行いながら意見をとりまとめていく手法です。

さて、市民から見た苫小牧ってどんなイメージなのでしょうか。

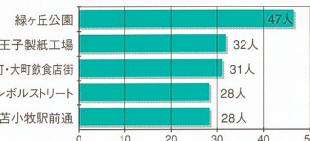
また「苫小牧市景観形成基本計画」を作るにあたって、平成7年度に市民のみなさんに苫小牧市の景観に対するアンケート調査^{※5}を行いました。改善が必要な場所としては緑ヶ丘公園や王子製紙、錦町・大町飲食店街などがあげられ、具体的な提案として、水辺と親しめる場所をつくりたい、美化マナーを育む環境教育の推進、地域の自然を保存し生かすなどの意見が出されました。

※1：アンケートは苫小牧市民を対象に無作為に抽出。
(配布／1,200票、回収／534票)

③ 苫小牧を代表する景観



④ 都市景観の改善が必要なところ



⑤ 校歌でよく使われる景観資源（言葉）



それにそってまちを育てていくことが必要となります。そのためにも、まず市民ひとりひとりが苫小牧の素敵な風景を発見したり、未来の苫小牧を思い描くことが大切なことです。みなさんの手、みなさんの声、みなさんの思い描く理想の苫小牧、それがなによりも未来の苫小牧をつくる原動力なのです。



市民ワークショップの討議のようす(平成9年7月)